

インフルエンザの お子さんを見守るポイント

下に示す様な異常があれば、
ただちに医療機関を受診しましょう。

1 意識がおかしい！

- ・ぼんやりして視線が合わない。
- ・呼びかけても答えず、うとうとしている。



2 けいれん！

- ・手足をつっぱり、がくがくする。
- ・白眼をむいている。

3 呼吸状態がおかしい！

- ・顔色が悪く唇が紫色。
- ・肩であえぐ呼吸、息苦しそう、呼吸が速い。
- ・胸を痛がる。



4 食欲不振や脱水症状がある！

- ・食欲がない。
- ・水分を取らない。尿が出ていない。
- ・何度も吐く。
- ・ぐったりしている。機嫌が悪い。



まれに肺炎や脳症、心筋炎などの重い病気を起こします。

お子さんを一人にせず、誰かが必ず付き添い、意識や呼吸状態、食欲や水分摂取の状態に気をつけましょう。

※ふつうのインフルエンザは、熱が3日間から5日間出たあと自然に良くなります。

インフルエンザに

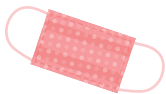
診断・治療について

- ・熱が出たあとすぐに診断キットで検査をしても、確実にインフルエンザと診断できるわけではありません。
- ・発熱後12時間から24時間くらい経過後に検査すると、90%程度の確率でインフルエンザと診断できるようになります。
- ・処方された抗ウイルス薬（タミフルやリレンザ他）は、熱が下がっても最後まできちんと使用しましょう。



他人にうつさないようにするためには

- ・手洗いやマスクを使用し、咳エチケットを守りましょう。
- ・インフルエンザウイルスは毎年少しずつ変化します。毎年流行前の10月から12月頃までにインフルエンザワクチンの接種を受けましょう。
- ・もし患者と同居する家族の中に、インフルエンザに感染すると重症化し易くなる呼吸器や心臓、腎臓などの慢性の病気や糖尿病などの持病を持つ人、妊娠している人がいる場合には、患者との接触をできるだけ避けるとともに、かかりつけ医に感染防止について相談しましょう。



役立つミニ情報



家庭での対応について

- ・未成年の場合、抗ウイルス薬を使っていなくても、急に高いところから飛び降りたり、道路へ飛び出したりする異常行動があります。高熱が出たら最低2日間は、こどもを一人にしないように気をつけましょう。
- ・インフルエンザの症状が一時良くなっても、再び発熱して咳がひどくなることがあります。それは細菌の感染により細菌性肺炎を引き起こすことがあるためです。熱が下がった後も、しばらくは気をつけましょう。
- ・おとなに使用される強力な解熱剤（ボルタレンやポンタール、インダシン等の薬）は、小児には使用しないことになっていますのでご注意ください。

登園・登校や外出の目安について

(2012年4月学校保健安全法改正)

- ・薬を使用するとすぐ熱が下がるため、登園・登校する人がいます。しかし病気が完全に治ったわけではなく、熱が下がってもウイルスの排泄が続いていますので、他の人に病気をうつす可能性があります。
- ・抗ウイルス薬を使用している学童は、発症後5日、かつ、解熱後2日が経過するまで出席停止になります。
- ・乳幼児の場合は、学童より回復に時間がかかるため、解熱後3日が経過するまで登園停止になります。

